

2024年度

事業報告書

社会福祉法人 恭生会

基本理念

『私たちは「愛」と「和」の精神を大切にします。そして、利用者さまの人権を尊重し「地域の皆さまに信頼され、愛される施設」を目指します』

社会福祉法人 恭生会のミッション（社会的使命）

『恭生会サービス提供圏域に住む方々の福祉の向上に積極的に関わり、地域社会の幸福度を向上させます』

社会福祉法人の位置づけとして社会福祉法第24条1項に、「社会福祉法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効率的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上及び透明性の確保を図らなければならない」とあります。

恭生会としても社会福祉法人の果たすべき役割を認識し、社会福祉事業を中心とした質の高い福祉サービスを提供するとともに、地域における多様化する福祉ニーズにきめ細かく対応し、地域社会に貢献していくことを目指します。

具体的には、以下の内容です。

1. 法人内連携強化、その後サービス提供圏域連携強化
 - ① 各施設の役割の明確化
 - ② 法人共通イベントの開催
2. 法人サービス提供圏域内の生活課題支援（ソーシャルワーク機能）強化
 - ① 生活課題抽出機能・支援機能の強化
 - ② 社会貢献事業拠出金の拠出先の見直し
3. 地域拠点施設（事業所）化の推進
 - ① 各職種スキルの向上
 - ② 相談先としての想起順位の向上
 - ③ 地域に信頼される施設づくり
 - ④ 地域の中での同業他社とは違う先駆的な取り組みの推進
4. 感染症・災害への体力強化
 - ① 感染症対策の強化
 - ② 業務継続に向けた取り組み（BCP 策定）と強化

I 概 要

<2024年度取り組み評価>

全体報告

介護を取り巻く環境は、少子高齢化の進行により老々介護、認知介護、核家族化、ヤングケアラーの増加など、様々な課題に直面しています。

2024年度の介護報酬改定では介護職員処遇改善を含め全体で1.59%の引き上げが行われましたが、訪問介護におきましては約2%の引き下げが行われ厳しい状況となりました。また、医療と介護の連携強化やICTツールの導入も推奨され、社会情勢に合わせたメリハリのある感染対策や、利用者のケアの充実を目指し業務の生産性向上を目指す取り組みが求められました。

和朗園におきましてもケアプランデータ連携システムの導入を進めるとともに、生産性向上に係る取り組みをスタートさせています。効率的かつ質の高いサービスの提供を目指すとともに、地域コミュニティとの連携を強化し高齢者を支える包括的な取り組みを目指しています。

中長期事業計画で定めている、私たち和朗園の社会的使命「地域社会の福祉を向上し、その信頼をもって競争力を高め、総合介護福祉施設 和朗園の価値を高める」ということを念頭に下記の取り組みを行いました。

- ①社会福祉法人の本旨を忘れず、社会に対し貢献していくこと。
- ②たとえ重度な要介護状態となっても、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるような支援体制を構築する。
- ③在宅での生活維持が困難な方に対し、施設入所により、質の高い入所生活を提供する。
- ④法人としての競争力を向上させ、税金が投入されている施設資源を適正に維持する。
- ⑤経営組織のガバナンスを強化し、事業運営の透明性を向上させる。

今年度も和朗園の社会的使命達成のために次の具体的目標に取り組みました。

<目標>

1. 事業所間や事業所内連携のとれた複合的サービスの提供

グループ内訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所等とのICT活用による医療・介護連携強化に取り組み、医療ニーズに対する対応力の向上や、カンファレンスを開催し、多職種チームによるチームケアに取り組んでいきます。

→ 電子カルテ「ブルーオーシャンシステム」の内容を充実させるとともに、月に1度、医療介護連携会議を開催し新規入所や入院中の利用者の情報を第一東和会病院と

共有し意見を交換しました。また、ケアプランデータ連携システムの導入を進め生産性向上に取り組んでいます。

2. 困難ケース(複合的課題ケース)の対応力強化

複合的課題(貧困・介護・障がい等の複合的な課題のある事例)の対応力を強化するために、OJT・OFF-JT環境整備やフォロー体制の構築により、職員の援助スキルの向上を図ります。

→ 包括支援センター、CSW など相談窓口からの依頼には和朗園全体として取り組み経験を共有することで対応力の強化に取り組みました。法人の社会貢献事業など社会資源を活用し、総体的に支援も行いました。

3. 認知症ケアチームの地域活動・高度認知症ケア

認知症介護指導者や実践リーダー・実践者とともに、最新の認知症ケア援助技術等を活用し認知症ケアの質の向上及び、高度認知症ケア教育体制整備に取り組みます。そしてその実践のノウハウ等について、地域へ還元していきます。

→ 認知症ケアに関するカンファレンスを開催し職員の認知症ケアスキル向上に努めました。

4. 働いてみたいと思えるような魅力的な教育制度の再構築

職員自身の成長を実感できるような、教育制度の再構築を目指します。具体的には、等級制度とリンクした教育制度の導入を検討し、現在のプリセプター制度等に上乗せした教育制度全体の再編を目指します。

→ 役職者向けに外部講師を招いてコーチング研修を1対1や少人数で定期的に行い、新たな知識習得や課題解決にむけての取り組みを継続しました。

5. 予算管理の徹底

介護人材不足及び処遇改善加算等による人件費高騰に対し、職員定数管理を通して適正配置及び適正人件費率を目指します。また、非常勤比率 25%を目標とします。

→ 毎月、職員定数管理を行い適正な人員配置に努めました。

6. 広報活動の強化

質の高い職員を確保していくために、ワークライフバランスの推進や、和朗園での様々な取り組みについて、SNSを活用した広報等の活動を通して、和朗園の知名度向上を目指します。そして、職員採用につながることを目指します。

→ ホームページやInstagramを通じ情報の発信を継続するとともに、Google ビジネスプロフィールを活用し和朗園の情報発信に努めました。また、大阪府社協、高槻市社協、施設連絡会主催の就職フェアへの参加やクロスパル高槻でのミニ面接会にも2ヶ月に1度参加しました。

Ⅱ 利用者状況

1. 介護度別状況

特別養護老人ホーム（延べ人数）

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2024 年度 合計	2023 年度 合計	差異
4 月	30	30	645	1051	1108	2864	2924	-60
5 月	31	31	577	1130	1110	2879	2979	-100
6 月	30	30	532	1115	1030	2737	2870	-133
7 月	31	31	556	1197	1060	2875	3061	-186
8 月	31	31	651	1137	1086	2936	3072	-136
9 月	30	30	663	1107	1005	2835	2871	-36
10 月	31	31	676	1064	1077	2879	2964	-85
11 月	30	30	687	1081	969	2797	2875	-82
12 月	30	31	796	1134	1035	3026	2867	159
1 月	11	31	827	1068	1035	2972	2924	48
2 月	0	28	718	1080	900	2726	2784	-58
3 月	0	62	742	1225	1006	3035	2921	114
合計	366	128	8734	12785	13039	34561	35112	-551

昨年対比 98.4 % 平均介護度 4.1

ターミナル期の取り組みについて

特養は、終身的施設であるということから、「ひとりひとりにあったケア」への取り組みが早期に出来るように、入所時に「心身の情報」の聞き取りを実施しており、介護職員と情報を共有し、早期の個別ケアが出来てきていると感じています。

また、看取り期に入った利用者のケア計画策定のため、医師の見解を基に家族との話し合いの場を設け、各職種からの立案により介護計画を作成し、他職種と連携しながらケアを行っています。看取りの勉強会も行い、他職種と価値観の共有に努めてきました。今後も各関連機関、家族と連携を図りながら実施していきます。

特養3F

1. 利用者様の個性を大切にして、尊厳を支えるケアを行います。

⇒その人に合わせた生活ができるように、入所時の聞き取りや、家族様の面会時などから情報収集するように努めています。今後も尊厳を支える個別ケアができるように取り組みます。

2. 「です・ます」を基本とし、語調が優しい声掛けを行います。

⇒フロアミーティングや内部研修で意識を向上させて、職員同士でも短時間の声掛けを行う事で、意識づけを行っています。

3. 勉強会を開催して、職員のスキルアップに取り組みます。

⇒内部研修や外部研修で学び、フロアミーティングで意見交換することで、意識の向上を図っています。今後もスキルアップできるように、継続して取り組んでいきます。

特養2F

1. 丁寧な言葉遣いと語調に気を付けて、利用者様の想いに寄り添います。

⇒フロアミーティングや内部研修で意識を向上させて、職員同士でも短時間の声掛けを行う事で、意識づけを行っています。

2. 環境整備に力を入れて、利用者様が気持ちよく過ごせる環境を整えます。

⇒感染対策に気を付けて、居室内や共有スペースの環境整備に努めました。

3. 勉強会を開催して、職員のスキルアップに取り組みます。

⇒内部研修や外部研修で学び、フロアミーティングで意見交換することで、意識の向上を図っています。今後もスキルアップできるように、継続して取り組んでいきます。

ショートステイ (延べ人数)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2024 年度 合計	2023 年度 合計	差異
4 月	0	2	29	40	122	32	13	238	212	26
5 月	0	4	32	37	136	27	19	255	212	43
6 月	0	2	17	43	136	14	27	239	230	9
7 月	0	0	51	39	100	14	18	223	212	11
8 月	0	1	22	48	109	22	10	216	256	-40
9 月	1	1	10	10	19	6	4	235	73	162
10 月	3	1	26	62	124	32	12	260	238	22
11 月	0	6	31	69	111	28	14	259	238	21
12 月	0	1	26	63	116	39	19	264	126	138
1 月	0	1	21	76	103	20	25	246	136	110
2 月	0	7	15	46	82	42	31	223	207	16
3 月	0	6	15	45	103	55	35	259	250	9
合計	4	32	332	610	1349	350	235	2917	2390	527

昨年対比 122.0% 平均介護度 2.8

デイサービス (延べ人数)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2024 年度 合計	2023 年 度合計	差異
4 月	72	217	541	223	271	88	87	1499	1424	75
5 月	72	235	519	254	279	84	80	1523	1530	-7
6 月	67	226	508	235	261	68	96	1461	1464	-3

7月	76	237	544	245	293	69	97	1561	1558	3
8月	83	226	515	236	320	82	80	1542	1530	12
9月	73	211	514	223	266	83	74	1444	1573	-129
10月	101	240	529	242	283	115	77	1587	1521	66
11月	92	245	464	230	311	81	59	1482	1498	-16
12月	102	262	460	274	293	94	59	1544	1530	14
1月	108	221	444	230	232	80	40	1355	1391	-36
2月	108	217	467	206	235	66	37	1336	1363	-27
3月	122	233	548	206	262	69	48	1488	1441	47
合計	1076	2770	6053	2804	3306	979	834	17822	17823	-1

昨年対比 99.9% 平均介護度 1.8 (要支援含む)

大きな感染症拡大もなく、イベントや行事等の活動も再開してコロナ禍以前の状態に戻りつつあります。それに伴い新規利用者数も増えているも、既存の利用者の高齢化が進み介護度増加による施設入所や病状悪化による入院等により利用率は去年と同じ横ばいとなっています。利用率向上のため、新規利用者獲得増加を目指し短時間利用の目的のための取り組みや認知症ケア、小集団で出来るレクリエーションリハビリ等の差別化を図る取り組みの実施をして行きます。

グループホーム (延べ人数)

	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2024 年度 合計	2023 年度 合計	差異
4月	0	185	120	32	60	82	479	537	-58
5月	0	186	124	62	62	93	527	508	19
6月	0	182	120	85	34	85	506	520	-14
7月	0	237	93	112	71	31	544	528	16
8月	0	217	124	116	62	31	550	533	17
9月	0	196	120	120	60	30	526	510	16
10月	0	200	119	93	93	40	545	552	-7
11月	0	210	114	90	73	0	487	535	-48
12月	0	242	140	87	62	0	531	558	-27
1月	0	248	155	93	62	0	558	558	0
2月	0	224	140	56	84	0	504	502	2
3月	0	220	186	62	87	0	555	549	6
合計	0	2547	1555	1008	810	392	6312	6390	-78

昨年対比 98.8% (利用延べ人数) 平均介護度 2.2 (昨年度 2.4)

利用者は家庭的な雰囲気の中、認知症ケアの取り組みを行う事により、おだやかに過ごされています。各種加算も算定しています。

ケアプランセンター (延べ人数)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2024 年度 合計	2023 年 度合計	差異
4 月	9	10	45	38	19	10	6	137	152	-15
5 月	9	10	47	36	17	10	8	137	147	-10
6 月	8	10	48	34	19	10	7	136	147	-11
7 月	7	10	45	34	19	10	6	131	152	-21
8 月	7	8	48	35	21	10	5	134	147	-13
9 月	7	8	44	33	21	8	9	130	141	-11
10 月	8	7	59	42	25	9	8	158	153	5
11 月	8	7	59	51	23	9	11	168	145	23
12 月	8	7	55	48	24	8	8	158	144	14
1 月	7	7	54	46	23	7	7	151	141	10
2 月	7	9	51	43	22	5	5	142	141	1
3 月	7	7	51	38	24	8	7	142	135	7
合計	92	100	6606	478	257	104	87	1724	1745	-21

昨年対比 要支援率 11.1% (-3.3%) 要介護率 88.80% (+3.3%)

担当総プラン作成数は上半期に終了・プラン休止が多く大きく減少しました。下半期はグループ居宅介護支援事業所の介護支援専門員退職による影響で利用者受け入れを進めた結果プラン数回復しました。しかし年間プラン数では最終減となりました。

ヘルパーステーション (延べ人数)

	派遣回数		
	2024 年度	2023 年度	差異
4 月	1137	1097	40
5 月	1265	1258	7
6 月	1105	1226	-121
7 月	1165	1225	-60
8 月	1200	1147	53
9 月	985	1146	-162
10 月	1083	1223	-140
11 月	970	1273	-303

12 月	904	1279	-375
1 月	854	1101	-247
2 月	865	1139	-274
3 月	967	1105	-138
合計	12500	14219	-1719

昨年対比 87.9%

ケアハウス（延べ人数）

	延べ人数		
	2023 年度	2024 年度	差異
4 月	842	884	42
5 月	904	930	26
6 月	872	867	-5
7 月	923	930	7
8 月	923	912	-11
9 月	885	874	-11
10 月	930	920	-10
11 月	900	871	-29
12 月	930	930	0
1 月	900	930	30
2 月	851	840	-11
3 月	930	918	-12
合計	10790	10806	16

昨年対比 99.8%

職員と入居者で生活支援計画を立案し、一人ひとりが年間を通じて達成できるようサポートさせていただきました。また、ケアハウスでの生活を少しでも長く継続していただけるよう、日常のレクリエーションや健康体操などへの参加を促して参りました。

さらに入居者の高齢化が進んできている状況ですので、移動販売車やお菓子の管理などのサービスを活用する方が増加しました。

2. 機能訓練延べ人数・加算状況

特別養護老人ホーム

	2024 年度			
	個別訓練	機能訓練加算	科学的推進	経口維持
4 月	307	2867	102	51
5 月	293	2880	99	56
6 月	287	2739	97	56
7 月	261	2878	101	55
8 月	229	2902	99	49
9 月	326	2806	100	48
10 月	379	2831	99	45
11 月	287	2801	100	43
12 月	247	3027	100	42
1 月	279	2921	100	48
2 月	299	2727	101	50
3 月	308	3037	102	50
合計	3502	34416	1198	593
前年度合計	3507	34811	1258	670
差異	-5	-395	-60	-77

短期入所生活介護

	2024 年度	
	機能訓練体制 加算	個別機能訓練 加算
4 月	298	62
5 月	325	69
6 月	306	75
7 月	281	54
8 月	273	50
9 月	312	50
10 月	323	70
11 月	324	73
12 月	336	67
1 月	298	44
2 月	248	46
3 月	326	66
合計	3650	726
前年度合計	3091	655
差異	559	71

通所介護

	2024 年度				
	個別訓練	集団訓練	個別機能訓練 加算Ⅰイロ	個別機能訓練 加算Ⅱ	科学的推進加算
4 月	318	877	1183	135	184
5 月	297	898	1155	136	191
6 月	250	907	1145	133	185
7 月	254	976	1215	136	187
8 月	335	844	1213	132	186
9 月	272	877	1139	132	183
10 月	301	918	1193	133	192
11 月	317	799	1128	133	164
12 月	260	894	1107	126	191
1 月	208	804	1000	121	184
2 月	252	750	984	127	190
3 月	236	892	1103	125	189
合計	3300	10436	13565	1569	2226
前年度合計	3685	10124	13876	1637	682
差異	-385	-312	-311	-68	1544

・運動器機能向上加算は、2024（令和6）年度介護報酬改定にて基本報酬に包括化

生活機能連携向上加算

	2024 年度			
	特養	ショート	デイサービス	グループホーム
4 月	101	19	183	18
5 月	98	21	191	18
6 月	97	21	185	18
7 月	101	18	187	18
8 月	99	17	186	18
9 月	100	17	183	18
10 月	99	17	192	18
11 月	100	18	164	18
12 月	100	14	191	18
1 月	100	12	184	18
2 月	101	12	190	18
3 月	102	12	189	19

合計	1198	198	2226	217
前年度合計	1207	202	682	192
差異	-9	-4	1544	25

3. 入所者（特別養護老人ホーム）の身体状況（2025. 3. 31 現在実数）

区分			実数	区分			実数	
移動	自立	自立歩行	9	排泄	昼間	便所	自力で可能	2
		杖等の歩行補助 具使用	9				一部介助	46
	一部介助		23				全部介助	11
	全部介助		59			ポータブル 便器	自力で可能	0
食事	自己で可能	58	一部介助				0	
	一部介助	14	全部介助				0	
	全部介助（胃ろう）		28		おむつ使用		41	
入浴	自己で可能		0		夜間	便所	自力で可能	2
	一部介助		68				一部介助	19
	全部介助		32				全部介助	0
着脱衣	自己で可能		6			ポータブル 便器	自力で可能	0
	一部介助		51				一部介助	1
	全部介助		43				全部介助	0
褥創者数			0		おむつ使用			78
看取り			1					
認知度	重度		48		トイレ誘導実施者数			57
	中度		25					
	軽度		27					

Ⅲ 会議・部会組織

	会議名	開催日		参加職種
所属長	所属長運営会議	第 3 木曜日		各事業所より主任以上職員
	衛生委員会	第 2 月曜日		産業医、衛生管理者、事業統括者、職員代表
	教育委員会	内部研修	奇数月 第 1 木	各事業所委員
		外部研修		
		新人教育		
	リスクマネジメント委員会	事故防止	第 2 木曜日	
		身体拘束廃止		
		虐待防止		
	行事委員会	行事	第 3 木曜日	
	サービス向上委員会	接遇	偶数月 第 1 木	
		利用者サービス		
		職員サービス		
	感染対策委員会	感染対策	奇数月 第 1 木 (+随時)	
広報委員会	広報誌 ホームページ	臨時開催		
栄養委員会	栄養	偶数月 第 1 木		
夕礼	第 1 木曜日		出勤している全職員	
褥瘡対策チーム	第 2 水曜日		師長・看護職員・機能訓練主任・介護支援専門員・管理栄養士・介護職員	
認知症ケアチーム	偶数月 第 4 水曜日		施設長・次長・認知症介護指導者・認知症介護リーダー研修修了者・認知症介護実践者研修修了者・ 各職種	
特養	特養運営会議	第 4 水曜日		施設長、師長、介護士長、介護主任、機能訓練主任、介護副主任、介護支援専門員(入所・ショート)、生活相談員
	入所選考委員会	第 4 月曜日		施設長、医師、師長、介護士長、生活相談員、介護主任、機能訓練指導員、介護支援専門員

	特養実務者会議	第 1 水曜日	介護主任、機能訓練主任、介護副主任、介護支援専門員、看護リーダー、介護リーダー、管理栄養士、生活相談員
	特養フロアカンファレンス	第 2 木曜日 (特養 3 階) 当月の前半 (特養 2 階)	介護主任・介護副主任・介護職員
	特養ケアカンファレンス	第 1・3 火 (2F) 第 2・4 火 (3F)	介護支援専門員、介護士長、介護主任、機能訓練主任、 機能訓練士 、生活相談員、管理栄養士、看護職員、介護職員
	喀痰吸引等実施の為に 安全対策委員会	第 2 金曜日	施設長、医師、課長、師長、介護士長、介護主任、看護職員
D S	デイサービス運営会議	第 3 木曜日	管理者、機能訓練主任、生活相談員、介護主任、介護副主任
	デイサービス実務者会議	第 1 金曜日	管理者、生活相談員 介護主任、介護副主任、介護職員
	デイサービス フロアカンファレンス	第 2 木曜日	管理者、生活相談員、看護職員、介護主任、 介護副主任、介護職員
G H	グループホーム カンファレンス	不定期月一回	管理者、計画作成者、介護副主任、介護職員
	グループホーム ケアカンファレンス	第 3or 第 4 水曜日	管理者、師長、計画作成者、介護副主任、 介護職員
H S	ヘルパーステーション 運営会議	第 4 金曜日	管理者、師長、提供責任者
	ヘルパーステーション カンファレンス	第 2 火曜日 第 3 火曜日	管理者、師長、提供責任者、介護職員、 登録ヘルパー
C H	ケアハウス カンファレンス	第 2 金曜日	管理者、師長、生活相談員、介護職員、
C P C	ケアプランセンター カンファレンス	第 3 金曜日	所長、介護支援専門員、施設長
	利用者に関する情報又は サービス提供にあたって の留意事項に係る伝達項 目を目的とした会議	毎週月曜日	所長、介護支援専門員
	生活相談員会議	第 2 金曜日	施設長、生活相談員、ホーム長、センター長
	看護カンファレンス	随時	師長、看護職員
	機能訓練カンファレンス	適宜 水曜日	機能訓練主任 機能訓練
	言語療法会議	第 2 木曜日	医師、歯科医師、歯科衛生士、機能訓練主任、 管理栄養士、看護職員、介護職員、介護支援 専門員、言語聴覚士

	音楽療法会議	適宜	医師、師長、機能訓練主任、デイ相談員、ホーム長、介護士長、特養相談員、介護主任、音楽療法士、介護支援専門員
--	--------	----	---

IV 委員会報告

1. 衛生委員会

職員の健康保持増進に関する重要事項について年間計画を立て、毎月の委員会で審議し課題に対する取り組みを実施することで、労働衛生の向上を図ってきました。

具体的には、定期的な職場巡視と過重労働の予防、メンタルヘルスの推進（ストレスチェックの実施、教育研修、常設相談室の開設、等）、健康診断結果等について審議し、研修や各職員への対応を実施しました。

2. 教育委員会

感染症の流行状況を見て、内部研修を集合研修で開催できることが増えて来ました。資料回覧とウェビナー(動画視聴)も活用して、実施できる選択肢が増えている事で、様々な状況に対応する事が出来ています。外部研修はオンラインだけではなくて、集合研修も実施される事が増えて来ており、それぞれの良さを活用して参加しています。新人教育制度では、プリセプター制度を実践して、働きやすい環境を作り指導を行いました。特定技能1号の受け入れに対しても、言葉の違いや文化や生活習慣の違いに配慮して、いきいきと活躍できる職場作りに取り組みしました。

【内部研修】

開催月	研修内容	講師	参加者の職種	開催方法	参加者
5月	倫理・法令遵守・プライバシー	管理職以上の職員	管理者 看護職員 介護職員 事務職員 管理栄養士 機能訓練指導員 介護支援専門員 生活相談員	資料回覧	全部署
	高齢者虐待防止	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署
	腰痛体操	機能訓練		集合研修	全部署
6月	食中毒	感染対策委員		集合研修	全部署
7月	手指衛生	感染対策委員		資料回覧	全部署
	介護事故	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署
	手指衛生	感染対策委員		資料回覧	全部署

	フィリス	フィリス担当者		資料回覧	全部署
	認知症ケアⅠ	実践者研修修了者		資料回覧	全部署
8月	身体拘束	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署
	看取り	看護師		資料回覧	全部署
	B C P	施設長		資料回覧	全部署
9月	接遇	サービス向上委員		ウェビナー	全部署
	車両事故	リスクマネジメント委員		集合研修	全部署
	褥瘡	褥瘡委員		資料回覧	全部署
10月	ノロウイルス インフルエンザ	感染対策委員		集合研修	全部署
	高齢者虐待	リスクマネジメント委員		ウェビナー	全部署
11月	人権	教育委員		ウェビナー	全部署
	メンタルヘルスケア	衛生管理者		集合研修	副主任 以上
12月	認知症ケアⅡ	認知症ケアリーダー 研修修了者		集合研修	全部署
1月	ハラスメント	次長		ウェビナー	全部署
3月	メンタルヘルス (全職員)	衛生管理者		集合研修	全部署
	防災	防災責任者		資料回覧	全部署
	身体拘束	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署
3月	介護事故	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署

【外部研修】

月日	研修名	主催	参加者
6/8～ 8/16	認知症介護実践者研修	大阪介護福祉士会	中島 貴子
6/10～ 9/20	介護支援専門員更新研修	公益社団法人 YMCA	天正 薫
6/10～ 9/20	介護支援専門員更新研修	公益社団法人 YMCA	石井 江美
6/12	介護施設に関する法令と 職場内コミュニケーションの基礎	大阪府社会福祉協議会	西里 民子
6/14～ 8/16	認知症介護実践リーダー研修	社会福祉法人聖徳会	久保 智也
6/24. 25	サービスマナーセミナー	大阪府社会福祉協議会	宮原 武
7/14	対人援助における守秘義務と 倫理の問題	創元社	福井 梨恵
7/19～ 12/19	主任介護支援専門員更新研修	大阪介護支援専門員協会	中谷 翔太
7/19～ 3/4	主任介護支援専門員更新研修	大阪介護支援専門員協会	中村 久義
7/25	軽度認知障害について	新阿武山病院	櫛辺 タ子
7/25	軽度認知障害について	新阿武山病院	藤森 弘恵
7/25	軽度認知障害について	新阿武山病院	辻 愛
8/2. 5. 26	対人援助 4 専門職講座	大阪社会福祉協議会	池田 聡
8/28. 29	認知症地域支援推進員	認知症介護研究 研修東京センター	福井 梨恵
9/2～視聴	介護技術の基本(オンデマンド)	大阪府社会福祉協議会	伊佐 泰典
9/7～ 11/12	認知症介護実践者研修	大阪介護福祉士会	杉山 耕平
9/10	放課後児童支援員認定資格研修	高槻市子ども未来部子ども育成課	林 麻由美
9/10	放課後児童支援員認定資格研修	高槻市子ども未来部子ども育成課	長谷川 健二
9/27	看取り期の栄養ケア	栄養士調理師研究会	渡辺 つばさ
9 月	ムセ・誤嚥を防ぐために食事介助や 口腔ケアについて学ぼう	オンブズマン機構大阪	櫛辺 タ子
11/8. 19. 28	大阪府放課後児童支援員認定資格	高槻市子ども未来部子ども育成課	吉岡 まゆみ
11/28. 12/6 1/10	大阪府放課後児童支援員認定資格	高槻市子ども未来部子ども育成課	市川 徳将
12/11～ 2/20	認知症介護実践リーダー研修	社会福祉法人聖徳会	溝口 賢吾
12/21. 22	社会福祉士実習指導者	一般社団法人京都社会福祉士会	杉山 耕平
1/22	機能訓練指導員	高槻市民間社会福祉施設連絡会	辻 愛

1/22	中堅職員から部下への指導方法について理解を深める	高槻市民間社会福祉施設連絡会	橋本 禄子
1/22	中堅職員から部下への指導方法について理解を深める	高槻市民間社会福祉施設連絡会	中村 久義
2/14	ケアマネ相談員が知っておきたい成年後見講座	大阪府介護情報・研修センター	宮原 武
2/26	認知症対応型サービス事業管理研修	大阪府社会福祉協議会	山神 真史
3/13	甲種防火管理者新規講習	豊中防火安全協会	山神 真史

3. リスクマネジメント委員会

【事故防止】

2024年度の1号事故報告件数は、以下の通りです。事故発生を防止するために、原因を究明し対策を実施しています。また、全職員に対し、対策について周知徹底をすると共に勉強会等も開催しています。

	1号事故発生数					
				重大事故発生数		
	2024年度	2023年度	差異	2024年度	2023年度	差異
特別養護老人ホーム	43	36	7	11	14	-3
ショートステイ	13	12	1	4	2	2
デイサービス	8	5	3	0	2	-2
グループホーム	13	7	6	2	3	-1
ヘルパーステーション	8	1	7	0	0	0
ケアハウス	8	1	7	3	0	3
合計	93	62	31	20	21	-1

【身体拘束廃止】

身体拘束廃止に向けての検討や、研修会等を通じて職員への周知を図っています。介護する側が何気なく使っている言葉や声掛けによってご利用者の言動が抑制されてしまう事がないよう周知し、日常的なご利用者の精神的苦痛を軽減するよう対策を検討しています。

【虐待防止】

従業者の虐待の防止を啓発・普及するための研修の実施（研修方法や研修計画）を定期的に行い、研修を通じて、従業者の人権意識の向上や知識や技術の向上に努めました。

4. 行事委員会

月日	行事名	内容
3月下旬～4月上旬	観桜会	近隣に出向き桜を楽しみました。

7月上旬	七夕	短冊に願いを込めて笹に飾り付けました。
7月中旬	納涼祭	地域、家族様の参加はなく、全部署中庭にて出店や踊りを披露し実施しました。
9月中旬	敬老会	全部署が集まり各対象者のお祝いを家族様と行いました。
12月中旬	ゆず湯	ゆず湯を堪能しました。
12月中旬	餅つき会	芥川高校和太鼓部の演奏とコラボレーションし餅つき大会を実施しました。
2月上旬	節分	各部署で実施しました。

今年度は感染症対策として、対策内容を一部変更し実施したイベントもありました。入所者様の生活の質の向上と、季節あふれる豊かな日常を提供する事を目的にイベントを企画・実施してまいりました。

5. サービス向上委員会

【接遇係】

表面上のマナーのみでなく、ご利用者・ご家族が「心あたたまる」接遇がおこなえるよう介護職員向け、事務職員向け等の研修を今年度も書面やオンライン対応で行い、職員同士では、お互いを褒め合える土壌作りにも取り組みました。

また、身だしなみは家庭的な暮らしの場としての雰囲気づくりに努めました。

【利用者サービス係】

<家族会>

特養が主催する家族会のサポート役として、参加予定でしたが、今年度も見送りとなりました。

開催予定日		予定内容	家族参加数
5/未定	特養家族会	未開催	中止
11/未定	特養家族会	未開催	中止

<苦情処理>

ご利用者・ご家族等からの苦情申し出の方法として、各フロアに「意見箱」を設置しております。意見箱の意見は、各事業担当者より回答を得て、それらの意見をサービス向上委員会で集約しております。

なお、利用者等からの意見の回答に関しては掲示板に掲示しております。

苦情に関しては、苦情受付窓口担当者が苦情の詳細について本人等から聞き取りをおこない、改善・解決に向けて取り組んでおります。苦情内容に関しては、苦情解決責任者、サービス向上委員会に報告し改善・解決策の妥当性について検討しております。

サービス向上委員会での苦情の改善・解決に関する審議の結果、必要時には所属長会議に報告し施設全体的に検討しています。

これら内部窓口の他にも、第三者委員、公的機関窓口の説明もしております。

対応した苦情内容は下記、第三者委員にも報告しています。

<2024 年度苦情件数>

1. 特別養護老人ホーム 0 件
 2. ショートステイ 1 件
 3. デイサービスセンター 2 件
 4. ヘルパーステーション 1 件
 5. グループホーム 0 件
 6. ケアハウス 0 件
 7. ケアプランセンター 0 件
 8. 地域包括支援センター 0 件
- 合計 4 件

苦情受付窓口担当者

事業所	窓口担当者	責任者
特別養護老人ホーム和朗園	杉山 耕平	長谷川 健二
ショートステイ和朗園	山田 晃平	長谷川 健二
デイサービスセンター和朗園	宮原 武	山神 真史
グループホーム和朗園	足立 このみ	中谷 翔太
ヘルパーステーション和朗園	山田 志津子	長谷川 健二
ケアプランセンター和朗園	介護支援専門員	古川 幸代
ケアハウス佑和	町支 榛美	山神 真史
地域包括支援センター	橋本 緑子	椿 和美

外部第三者委員として、次のように定めています。

第三者委員		
・ 住民代表	佐々木 進次郎	
・ 第二東和会病院 名誉院長	榎 原 茂 樹	(Tel 072-674-1008)
・ 住民代表	佐々木 映 杏	

【職員サービス係】

今年度は「職員満足度調査」の実施なし。

6. 感染対策委員会

2024 年 7 月～8 月当施設における 6 回目のクラスターが特養 2 階（利用者 9 名）グループホーム（入居者 7 名）で発生しました。重症化される方もなく発生から 14

日程度でフロアの隔離解除も出来ました。最短で隔離解除に繋がれたと考え、フロアスタッフの頑張りに感謝している所です。

インフルエンザも、11月～2月にかけて大流行しておりましたが、施設内では単発的発生のみに終わり安堵した次第です。今後も危機感を持って感染対策に望みたいと考えております。そして利用者・家族に安心できる生活環境を提供していきます。

	活動	備考
4月	施設内ラウンド	管理日誌変更
5月	出勤時の手洗いチェック・呼びかけ 定例会議 寝具交換・衣替え 体調チェック	
6月	水質検査 勉強会 施設内ラウンド 体調チェック	食中毒予防 配管洗浄（デイ）
7月	定例会議 体調チェック	冷房使用中の衣類調節 空調や換気の発信
8月	施設内ラウンド 体調チェック	熱中症・脱水症予防
9月	定例会議 水質検査 体調チェック	Vセット備品点検と補充 配管洗浄（CH）
10月	出勤時の手洗いチェック・呼びかけ 勉強会 感染マニュアル確認・改訂 体調チェック	感染症発生情報・関連ポスター掲示 インフルエンザ・ノロウィルスの予防対策 各部署へ感染予防の徹底を指示する Vセットトレーニング
11月	定例会議 感染症対策・体調チェック 寝具交換	温度・湿度（霧吹き）管理を各部署へ発信 暖房中の衣類管理 Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示 管理日誌変更
12月	水質検査 感染症対策・体調チェック 施設内ラウンド	Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示 配管洗浄（デイ）
1月	定例会議 感染症対策・体調チェック	Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示 手指消毒アルコール個人携帯開始
2月	感染症対策・体調チェック 施設内ラウンド	Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示

3 月	定例会議 感染症対策・体調チェック 水質検査	Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示 配管洗浄（CH）
-----	------------------------------	--------------------------------------

7. 広報委員会

【広報誌】

各部署（特養・DS・GH・CH）広報誌を発行いたしました。

特養：4・8・3月（10月は発行中止）DS：4・8・10・1月

GH：5・8・10・1月 CH：作成していません。

各部署の対象となる読者に向け内容を検討し作成しました。

8. 栄養委員会

【給食】

ご利用者一人一人の食事から、食レクの企画まで「食の楽しみ」を演出する為、日々検討・改善を重ねています。

感染予防の観点から例年通りの食レクの実施は行わず、相談して可能な範囲での食レク提供としています。

【栄養】

食器の購入、メニューや食材の評価、アンケート結果の検討など、運営に関する課題について委託業者を交えて意見交換し、ご利用者のニーズにいち早く応えられるような柔軟な体制作りを行いました。

9. 褥瘡対策チーム

新入所のご利用者を中心に、ブレデン評価・チーム全員でフロアラウンドを行い、ポジショニング等の評価を行ない褥瘡予防に取り組みました。発生人数は23名(前年比+4名)でしたが、**延褥瘡治療件数は昨年度より-2件であったことから、早期治癒に至った利用者が多かったと考えます。**

今後も褥瘡予防に努めると共に、褥瘡発生時はマットレス・クッション・体交枕等の再評価を行ない、毎日の洗浄や薬剤塗布、週一回ラウンドを行い医師による評価・治療等早期治癒に努めて行きます。

今後もスタッフの褥瘡へのリスク感性の継続や報連相がタイムリーに行える環境の維持に努めて行きたいと考えております。

10. 認知症ケアチーム

認知症の人がより安心して暮らせる環境づくりを推進している施設として、昨年度より引き続き日本認知症ケア学会より「機関認定」として地域活動をして参りました。商業施設で開催している認知症カフェについても、地域の協力を借りて継続開催することができました。今後も認知症ケアの専門性の向上を図るとともに、地域に住む認知症高齢者の日常生活・家族支援を強化に努めます。

V 防災訓練

2024年度は、職員だけではなく特別養護老人ホーム和朗園で入所されている利用者様も訓練に参加していただいたことにより、より実践に近い形での実施ができました。2025年度の訓練は、前年度と同様に利用者様も参加していただきつつ、避難までの一連の流れで行うだけでなく、シーツを使用した階段での誘導方法等、ポイントを絞った訓練を実施して避難時の介助スキルの向上に努めます。

防災避難訓練

日時	内容	参加人数
6/26	指揮訓練、消火訓練、安全防護訓練、屋外消火栓操法、通報連絡訓練、避難誘導訓練、応急救護訓練	22名
9/26	地震想定避難訓練	32名
12/10	指揮訓練、消火訓練、安全防護訓練、屋外消火栓操法、通報連絡訓練、避難誘導訓練、応急救護訓練	22名
2/26	水害避難訓練	38名(内2名特養利用者)

防災管理委員会構成

(なお、防災管理委員会は、消防計画上の防火対策委員会を兼ねるものとする)

役名	補職名	氏名	担当業務
委員長	統括施設長	長谷川健二	全般指揮(自衛消防隊長兼務)
副委員長	次長	山神真史	委員長の補佐(自衛消防副隊長兼務)
委員	地域包括支援センター長	椿和美	地域連携連絡・避難者受入調整
委員	看護師長	東口すみ江	救護担当
委員	生活相談員	杉山耕平	避難誘導対策担当
委員	認知症対応型共同生活介護ホーム長	中谷翔太	夜間対策担当
委員	介護老人福祉施設主任	井上博幸	災害リスク担当
委員	介護老人福祉施設士任	伊佐泰典	職員教育担当
委員	機能訓練主任	櫛辺夕子	消防設備・建築設備の点検担当
委員	地域包括支援センター副主任	橋本緑子	地域連携連絡・避難者受入調整
委員	居宅介護支援事業所所長	古川幸代	地域連携担当
委員	管理栄養士	渡辺つばさ	備蓄担当

() 内消防計画上の防火対策委員会での兼務事項

火元責任者一覧

	担当エリア	補職名	氏名
防火管理者	施設全体管理	次長	山神真史
火元責任者	事務所	相談員	杉山耕平
火元責任者	包括支援センター	包括センター長	椿和美

火元責任者	ク リ ニ ッ ク	看 護 師 長	東 口 す み 江
火元責任者	デ イ サ ー ビ ス	セ ン タ ー 長	山 神 真 史
火元責任者	特別養護老人ホーム2階	主 任	井 上 博 幸
火元責任者	特別養護老人ホーム3階	士 長	伊 佐 泰 典
火元責任者	グ ル ー プ ホ ー ム	ホ ー ム 長	中 谷 翔 太
火元責任者	ケ ア ハ ウ ス	生 活 相 談 員	町 支 捺 美
火元責任者	5 階 会 議 室	生 活 相 談 員	町 支 捺 美
火元責任者	厨 房	(株) 塩 梅 な に わ	渡 辺 つ ば さ

自衛消防組織編成表（地震防災応急組織）

	担当	内容
自 衛 消 防 隊 隊 長	長谷川 健二	全般指揮
自 営 消 防 隊 副 隊 長	山神 真史	隊長の補佐
防 災 セ ン タ ー 通 報 班	椿 和美	通報・地域連携連絡
安 全 確 保 班	事務職員	避難路の確保
救 護 班	看護職員	負傷者の応急手当等
設 備 班	機能訓練指導員	必要物品の用意・管理
通 報 班	介護職員・看護職員・サービス担当責任者	施設利用者等への通報
消 火 班	介護職員・サービス担当責任者	初期消火
避 難 誘 導 班	介護職員・看護職員・サービス担当責任者	避難誘導、救護
安 全 班	機能訓練指導員	防火戸の閉鎖等

VI 地域との交流

初めての取り組みとしては、8月～12月に五領地区で開催された「五領地区防災ワークショップ」へ出席し、地域防災のあり方について、地域住民や地域役員の方々と五領地区でのマイタイムライン、コミュニティタイムラインについて検討しました。

10月は和朗園のソーラン節踊り連のメンバーが地域からの依頼を受けて、各お祭りでソーラン節を披露し、地域行事を盛大に盛り上げました。同月、高槻市介護保険事業所協議会・認知症支援部会主催の認知症支援事業「ソフトボール大会」へ、デイサービスやグループホームの事業所を中心にご利用者様と一緒に参加し、当事者やご家族、他の事業所や多職種と交流することができました。また同月高槻市都市緑化フェアにおいて地域住民と共に取り組んだ花壇について、ガーデンコンクールで最優秀賞をいただきました。5月と11月には、地域高齢者の実状とその支援対応を共有するための上牧地区セーフティネット会議へ参加し、地域内での支援困難者や多世代にわたる要支援者のサポートについて会議参加者と協議しました。

VII 喀痰吸引研修事業

介護職員による医療連携の一環として、介護職員が利用者に対して行う喀痰吸引や経管栄養の手順を研修する事業を行っています。今年度は10名の受講者があり研修を行

いました。筆記試験は 9 名実施し、8 名合格。年度内に実地研修も終了し認定資格を得ることが出来ました。

VIII 初任者研修事業

幅広く介護人材の裾野を広げ、多くの人材を育てていくことを目的に、職員初任者研修事業を今年度 1 回も開講しました。現在無資格で介護職員として働いている職員のキャリアアップやご自身の親への介護の為と受講理由は様々ですが、今年度も優秀な人材を送り出しました。

開講日 2024 年 10 月 18 日～2023 年 12 月 20 日
定員 10 名
修了者 4 名

IX 放課後ひろば和っはっは

季節に沿った催しも開催できるようになり、活動機会が増加しています。毎月の課外活動が好評で参加者が増えてきています。

また、近年顕在化してきている児童の相対的貧困支援として、食事支援・経済的支援が必要な児童及びその家族等には、食事支援・経済的支援につなげ、児童の健やかな育成につなげることを目的とし、取り組んでまいりました。

- ・年間利用延べ人数 4, 8 1 8 人
- ・開所日数 2 6 3 日（大雨警報により 1 日閉所）
- ・平均人数 1 8. 3 人／日

X 生計困難者に対する相談支援事業

今年度 2 件の困窮相談をおこないました。1 件目、妻が介護状態で夫が生活を支えていたが、夫が入院し、収入が途絶えて滞納や生活用品の購入が難しい状態になった為、オムツの購入支援を行った。その後、夫が再度入院したが、本人様は施設に入所した為、支援終了。2 件目は 3 人暮らしで夫がリストラされ、電気・水道・ガスが止まる状態になった。妻がお金を借りたり、娘が支払いをしたりと生命の危険は脱する事が出来た。夫も働き始めたため、支援終了となる。

X I 音楽療法

認知症予防・健康維持及び生きがい創りの場を提供しますが、感染症の影響で見合わせておりましたが、「ミュージックセラピー」でグループホーム個別対面对応を 1 週間に 1 日から開始しています。

【再開未定】＊感染状況・音楽療法職員の日程を調整しながら、適宜再開検討中

ミュージックセラピー（利用者数：個別 20分月金曜日開催）

ほん和かミュージックルーム（利用者数：各10名 / 金曜日に2回開催）

	2024 年度			
	ほん和かミュージックルーム	デイ ミュージックセラピー	G・H ミュージックセラピー	特養ミュージックセラピー
4 月			9	
5 月			10	
6 月			16	
7 月			8	
8 月			非実施	
9 月			10	
10 月			11	
11 月			6	
12 月			9	
1 月			非実施	
2 月			6	
3 月			9	
合計			94	
前年度合計			186	
差異			-94	

・2024 年度は、GH のみ開催 8 月・1 月は、音楽療法士都合で非実施

2024 年度

事業報告書

社会福祉法人 恭生会

在宅複合型老人介護施設 天兆園

【在宅複合型老人介護施設 天兆園の部】

令和 6 年度総括

令和 6 年度も、**昨年同様**感染対策を行いながら、活動の幅を広げて行うことが出来ました。**特に外出行事では、誕生日月の方と毎月近隣の商業施設に買い物に出かける事で、ご利用者様に施設以外での活動の提供や、コロナ以降途絶えていたボランティアによる趣味活動教室を実施する事が出来ました。又、北圏域地区保健福祉センタープロポーザルでは、地域包括支援センター天兆園が受託する事ができ、令和 7 年度からは行政と協力しながら地域のご利用者様の支援を行ってまいります。**

I 目標

1. 感染症や災害への対応力を強化します。

法人内、拠点とも連携を図りながら、感染症対策の強化、業務継続に向けた取り組みの強化、災害への地域と連携した対応の強化に努めます。又、茨木市の介護事業所として、北部圏域内事業所の連携についても強化していきます。

⇒**年 2 回の災害対策訓練や訓練実施後の机上訓練を行う事で、職員一人ひとりに災害時の役割や流れを意識付ける事が出来ました。又、BCP の定期的な見直しも実施し、社会情勢や基本となる考え方の変化にも対応していきたいと**思います。又、北圏域の事業所で今年度は 3 回集まり、災害発生時の取り組みや、各事業所での困りごと、圏域としての防災訓練についても検討する事が出来ました。

2. 地域包括ケアシステムの推進を行います。

認知症への対応力向上、看取りへの対応の充実、相談機能の強化を行いながら様々な課題を丸ごと受け止める相談支援のネットワーク整備に努めます。

⇒**昨年同様認知症カフェを継続して実施し、地域の方への情報提供や相談支援機能の場としても、活動する事が出来ました。又、年度末に看取り対象の利用者が発生し、家族・ケアマネージャーを交えてインフォームドコンセントを行い、寄り添ったケアの実施も継続して実施しております。**

3. 介護人材の確保、指導育成力の向上、ICTの導入を行います。

現場職員研修が研修に参加しやすくなるよう、ICT を使用しての研修や、サービスの質向上を図りつつ安心して働くことができる環境の整備に努めます。また、ICTの導入を推進し、業務の効率化・負担の軽減に努めます。**又、経験を重ねた職員が下級職者に適切に指導できるよう、指導育成研修やマネジメントについての知識も定着させていきます。**

⇒**集合研修や介護職員が外部研修で学んできた内容を伝達研修として発表する事を昨年に比べ増やして実施する事が出来ました。**

Ⅱ 利用者状況

1、介護度別状況

ショートステイ (延べ人数)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2024 年度合計	2023 年度合計	差異
4 月	0	0	131	223	165	158	104	781	762	19
5 月	0	0	133	235	177	149	102	796	812	-16
6 月	0	0	128	214	203	152	72	769	741	28
7 月	0	5	133	210	261	147	74	830	788	42
8 月	0	12	127	232	233	148	70	822	804	18
9 月	0	3	112	242	224	130	70	781	785	-4
10 月	0	6	138	267	215	136	66	828	821	7
11 月	0	0	157	238	217	120	80	812	765	47
12 月	0	0	138	229	229	134	77	807	797	10
1 月	0	0	146	207	209	131	69	762	761	1
2 月	4	0	153	180	170	115	70	692	710	-18
3 月	0	0	154	191	168	152	75	740	772	-32
合計	4	26	1650	2668	2471	1672	929	9420	9318	102

平均介護度 2.7

昨年対比 101.1%

デイサービス (延べ人数)

	要支援 1 (事業対象者)	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2024 年度合計	2023 年度合計	差異
4 月	67	49	353	375	225	215	83	1367	1255	112
5 月	74	50	404	392	236	225	95	1476	1402	74
6 月	69	49	357	403	210	201	55	1344	1374	-30

7月	65	59	421	403	238	183	83	1452	1316	136
8月	60	64	430	396	258	147	84	1439	1365	74
9月	56	56	400	333	253	118	107	1323	1441	-118
10月	64	67	441	351	259	136	117	1435	1472	-37
11月	61	81	421	358	242	128	119	1410	1468	-58
12月	51	62	392	354	237	130	106	1332	1465	-133
1月	44	50	359	333	215	114	106	1221	1324	-103
2月	40	50	386	315	174	125	115	1205	1307	-102
3月	52	57	453	349	222	133	115	1381	1416	-35
合計	703	694	4817	4362	2769	1855	1185	16385	16606	-221

平均介護度 2.2

昨年対比 98.7%

ケアプランセンター（延べ人数）

	事業 対象 者	要支 援 1	要支 援 2	要介 護 1	要介 護 2	要介 護 3	要介 護 4	要介 護 5	2024 年 度合計	2023 年度合 計	差異
4月	2	19	20	68	50	22	16	4	201	168	33
5月	2	19	20	67	55	21	15	5	204	164	40
6月	2	20	19	69	53	21	14	6	204	171	33
7月	2	19	20	71	53	24	14	7	210	178	32
8月	2	16	21	78	52	25	10	8	212	184	28
9月	2	17	22	81	51	26	9	6	214	184	30
10月	1	19	20	76	50	24	10	5	205	185	20
11月	1	18	22	76	47	28	11	5	208	188	20
12月	0	19	23	80	45	25	11	4	207	190	17
1月	0	20	21	80	44	23	12	5	205	192	13
2月	0	19	23	80	44	20	10	7	203	197	6
3月	0	19	22	77	43	18	9	7	195	202	7
合計	14	224	253	903	587	277	150	69	2477	2203	274

昨年対比 110%

ヘルパーステーション (延べ人数)

	派遣回数	
	2024 年度	2023 年度
4 月	352	415
5 月	344	443
6 月	289	396
7 月	347	405
8 月	350	413
9 月	335	406
10 月	362	399
11 月	350	390
12 月	309	380
1 月	275	344
2 月	290	349
3 月	294	364
合計	3897	4704

昨年対比 82.8% (2024 年度 自費サービス除く)

2. 機能訓練状況 (延べ人数)

短期入所生活介護

	2024 年度			
	個別訓練	集団訓練	機能訓練加算	個別機能訓練加算
4 月	789	342	79	77
5 月	790	372	81	80
6 月	774	324	63	63
7 月	812	369	45	45
8 月	836	389	46	46
9 月	780	191	37	37
10 月	836	218	44	44
11 月	794	352	51	51

12月	820	330	47	47
1月	739	301	41	49
2月	680	326	30	49
3月	735	314	82	64
合計	9385	3828	646	651
前年度	9326	3373	1107	1105
昨年対比	100.6%	113.4%	58.3%	58.9%

通所生活介護

	2024年度					
	個別訓練	小集団訓練	個別機能訓練加算 I イ	個別機能訓練加算 I ロ	運動機能向上加算	生活機能連携向上加算
4月	701	517	2	1177	1	141
5月	696	600	0	1260	0	150
6月	631	558	0	1170	0	148
7月	754	526	0	1232	0	149
8月	698	579	0	1220	0	148
9月	638	540	0	1138	0	154
10月	775	469	0	1216	0	154
11月	707	519	0	1188	0	147
12月	630	550	0	1157	0	144
1月	645	465	0	1051	0	144
2月	607	538	0	1043	0	135
3月	692	584	0	1234	0	143
合計	8174	6445	2	14086	1	1757
前年度	8695	6094	217	14117	290	1924
昨年対比	94.0%	105.7%	0.9%	99.7%	0.3%	91.3%

2024年度介護保険の改正で運動機能向上加算廃止となる

Ⅲ 地域との交流

日時	行事	内容
R6.4～R7.3	山手台福祉委員会	福祉委員による地域福祉活動等の会議（2回/年）
R6.4～R7.3	石河地区福祉委員会	福祉委員による地域福祉活動等の会議（3回/年）
R6.4～R7.3	清溪地区福祉委員会	福祉委員による地域福祉活動等の会議（4回/年）

R6. 4～R7. 3	見山地区福祉委員	福祉委員による地域福祉活動等の会議（2回/年）
R6. 4～R7. 3	アルプラザ相談会	商業施設での福祉相談会（1回/偶数月）
R6. 4～R7. 3	カフェサロン（西河原）	ローレル集会所、サニーハウス集会所、西太田自治会館にて、喫茶サロン
R6. 4～R7. 3	ティーサロン（東太田）	高齢者対象のサロン（10回/年）
R6. 4～R7. 3	こだま会（西太田）	高齢者対象のサロン、健康講座等（10回/年）
R6. 4～R7. 3	サニーサロン（東太田）	高齢者対象のサロン（10回/年）
R6. 4～R7. 3	やまびこの会（東太田）	高齢者対象のサロン、歌体操等（10回/年）
R6. 4～R7. 3	ひだまりサロン （東太田）	全年齢層対象のサロン、ゲーム、子育て相談、多世代交流等（12回/年）
R6. 4～R7. 3	山手台コミデイ （山手台）	ななつ星（山手台）（1回/月）
R6. 4～R7. 3	いきいきサロン（安威）	高齢者対象のサロン、健康相談等（1回/偶数月）
R6. 4～R7. 3	子育てサロン（耳原）	子民家よってこにて、子育てサロンを実施（1回/月）
R6. 4～R7. 3	こども食堂（耳原）	子民家よってこにて、こども食堂を実施（1回/月）長期休暇中は（1回/週）
R6. 4～R7. 3	子育てサロン（福井）	福井小にて、子育てサロンを実施（1回/2か月）
R6. 12	北中子育てサロン	北中にて子育てサロンを実施
R6. 4～R7. 3	S N会議（山手台）	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討（5回/年）
R6. 4～R7. 3	S N会議（清溪）	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討（1回/月）
R6. 4～R7. 3	S N会議（忍頂寺）	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討（1回/月）
R6. 4～R7. 3	S N会議（北中）	要援護者及び中学校区課題検討（3回/年）
R6. 4～R7. 3	S N会議（福井）	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討、研修（5回/年）

R6. 4～R7. 3	S N会議(安威)	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討(奇数月)
R6. 4～R7. 3	S N会議(西河原)	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討、研修(偶数月)
R6. 4～R7. 3	S N会議(太田)	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討、研修(4回/年)
R6. 4～R7. 3	S N会議(北陵中)	要援護者及び中学校区課題検討(3回/年)
R6. 4～R7. 3	S N会議(太田中)	要援護者及び中学校区課題検討(3回/年)
R6. 4～R7. 3	いきいきサロン(耳原)	高齢者対象のサロン、健康相談等(1回/奇数月)
R6. 4～R7. 3	S N会議(耳原)	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討、研修(奇数月)
R6. 4～R7. 3	グループホーム運営推進会議	ふれあいぼっぼ運営推進会議(1回/2ヶ月)
R6. 4～R7. 3	グループホーム運営推進会議	コティ東彩都(1回/年)
R6. 4～R7. 3	地域密着型通所介護運営推進会議	いっぷく(書面開催)デイサービスみのほら(2回/年)
R6. 4～R7. 3	地域密着型通所介護運営推進会議	コティ東彩都、双子屋、ショッピングサポートデイサービスあき(2回/年)ショッピングデイのみ開催。
R6. 4～R7. 3	地域密着型特別養護老人ホーム運営推進会議	ほくしん苑運営推進会議(1回/2ヶ月)
R6. 4～R7. 3	小規模多機能型支援事業運営推進会議	ほほえみの郷車作(偶数月)
R6. 4～R7. 3	運営協議会	茨木市地域包括支援センター運営協議会(2回/年)
R6. 4～R7. 3	いきいき交流広場	ふじだな、朝日丘交流亭、見山、銭原(不定期)
8月、2月	老人クラブ(長寿会)	健康相談と講話、脳トレなど(年2回)
R6. 4～R7. 3	老人クラブ(車作)	健康体操・講話(1回/月)
R6. 4～R7. 3	老人会(山手台)	健康体操・講話(不定期)
5月	耳原地区福祉委員会	グランドゴルフにて熱中症予防講話、相談

R6.4～R7.3	山手台地区福祉委員会	宅配事業（コスモス弁当）支援
9月	見山地区福祉委員会	消費者被害・対策等の研修
11/12、11/26、 12/10、1/28、2/12	藍野大学 実習生受け入れ	藍野大学（看護師）の実習受け入れ
5/28～30 6/25～6/27	大手前大学 実習生受け入れ	大手前大学（看護師）の実習受入
8月	夏祭り	太田・西河原・山手台・安威・福井・ 耳原・清溪・忍頂寺
8月	RanRan 土曜ランチカフェ	夏休み限定のランチカフェ。8月中 は毎週土曜日開催
7～9月	西河原小学校区 熱中症予防キャンペーン	西河原小学校区住民対象。小学生から のメッセージ入りカレンダーを高 齢者に配布し、住民同士で熱中症予 防を呼びかけ合う取り組み。
9～10月	敬老会	安威・福井・耳原・清溪・忍頂寺・ 太田・西河原地区は開催。（啓発と健 康相談）山手台地区は開催なし。
10月	西河原地区 健康フェスティバル	全年齢層対象の健康づくりイベン ト。体組成測定、ニュースポーツ、 親子遊びコーナー等
5月27日 11月25、26日 12月10日	ウォーキングイベント	活動の機会、体力づくり（ヤマト運 輸関西ゲートウェイ、おにクル）
10月29日	すこやかカラダづくり ～フレイル予防で スマイルチャージ～	アルプラザ茨木でフレイル予防や健 康増進のためのイベント開催
5.11月	山手台健康フェスタ	山手台住民を対象に、健康体操や脳 トレ、包括等相談窓口についての啓 発

12 月	太田お茶べり会	花園東和苑自治会住民との交流会
1 月 20 日	みんなで学ぼう！ スマホ教室	市民講座を開催。基本的なスマホの操作方法を学ぶ。
R6. 4～R7. 3	地域ケア会議	清溪・忍頂寺・山手台と天兆園の各包括で開催（全 6 回）
1 月	太田中学校 防災セミナー	太田中学校 1 年生対象。太田小学校区防災会による講座を開催。
2 月	西河原地区 住民研修会（認知症について学ぼう）	西河原地区住民向けの勉強会。寸劇、グループワークを交えた勉強会。
R6. 4～R7. 3	おやこ de あいのカフェ	藍野大学にて子育て世帯向けの遊び場、くつろぎの場として開催（1 回/月）
R6. 4～R7. 3	民生児童委員協議会（福井）	福井公民館にて要援護者及び地域課題検討、情報交換等（1 回/月）
R6. 4～R7. 3	民生児童委員協議会（西河原・耳原）	西河原コミセンにて情報交換等（1 回/月）
R6. 4～R7. 3	民生児童委員協議会（太田）	太田公民館にて情報交換等（1 回/月）
6 月	認知症サポーター養成講座	福井高校にて認知症や CSW の活動、相談窓口について啓発
1 月 7 日	認知症サポーター養成講座	追手門学院大学経済学部にて認知症や包括等相談窓口について啓発
11 月 21 日	認知症サポーター養成講座	追手門学院大学表現サークルにて認知症や包括等相談窓口について啓発
7 月 25 日	認知症サポーター養成講座	山手台老人会にて認知症や包括等相談窓口について啓発

※SN 会議＝セーフティネット会議

IV 行 事・イベント・クラブ

全体行事

日時	行事名	内容
5/17	お茶会	お抹茶と和菓子を頂きました
9/18	敬老会	祝い年の利用者様の表彰、写真撮影とボランティアによる コーラス を実施しました。
10/19	秋祭り	出店（焼きそば）（飲み物）、 職員による出

		し物を楽しんで頂きました。
1/7	新年会	午前、ボランティアによる詩吟を披露。職員による南京玉すだれを行いました。午後より職員によるおみくじ、福引きを行いました。

全体イベント・クラブ活動等

日時	イベント・クラブ名	内容
第3水	陶芸教室	職員による陶芸教室を実施しました。
第2金 第4火	喫茶 ひだまり	職員による喫茶コーナーを実施しました。
第1火	書道教室	職員による書道教室を実施しました。
第4水	編み編みクラブ	令和7年3月よりボランティアによる指導で毛糸使用し編み物教室を開設しました
第2土	カラオケクラブ	令和6年6月より会議室を使用しカラオケ好きな方専用のクラブを開設しました
第3木	誕生月の買い物ツアー	令和6年6月から誕生月の方がアルプラザへ買い物に行きました
第4月	折り紙クラブ	令和7年3月よりボランティアによる折り紙教室を開設しました
毎月1回	天兆園の日	各種のイベントと特別料理を提供しました。

その他、デイサービス・ショートステイの各フロアにおいて、レクリエーションに取り組んでいます。

V 研修・会議

【内部研修】

(全体) = 施設全体研修 (中堅) = 中堅職員研修 (指導) = 指導的職員研修

開催年月日	研修内容	講師	参加者の職種	参加人数
4/2	法令遵守について	永森相談員	全体	56
5/7	E コール	宇津副主任		56
6/4	個人情報保護法	高橋 CM		56
7-2	在宅介護のための感染症予防	加来看護師		56
8/6	身体拘束について	木村副主任		56
9/3	看取りについて	ショート 嶋村 CW		56
9/7	メンタルヘルスケア	馬場センター長	全体	56

10/1	認知症の理解	デイ 西出 CW	全体	56
11/5	事故対策・ 事故予防	ショート 立入 CW	全体	56
12/3	感染症標準予防策	濱端主任	全体	56
1/7	身体拘束について	ショート 長谷川 CW		56
2/4	非常災害研修	内山所長		56
3/4	高齢者虐待に ついて	包括 石原 CM		56

【外部研修】

開催年月日	研修内容	主催	参加職種
4/26	成年後見人制度（配信）	茨木市	CM
	人権研修	茨木市	CM
5/23	ケアプラン研修	茨木市	CM
6/29	居 宅 介 護 支 援 事 業 所 ハラスメント	茨木市	CM
7/26	感染症・食中毒予防対策（配信）	茨木市	CM
	運営指導・監査等の行政対応 セミナー	茨木市	CM
9/7	生活困窮者自立支援制度に ついて	茨木市	CM
	業務継続計画（BCP）の作成と シミュレーション訓練の実施 ポイント	茨木市	CM
	高齢期の精神疾患の理解と対 応	茨木市	CM
10/8. 18. 22	キャリアパス対応生涯研修 課程	公益社団法人大阪介護 福祉士会	介護
10/18	健康は健口から～生活を支え る口づくり	茨木市	CM
10/24	BCP 研修（水害土砂災害ハザード マップ）	茨木市	
11/5	防災リーダー養成研修	株式会社ツクイスタッ フ	
11/14	みんなで関わる認知症～総持	茨木市	CM

	寺モデルのころ～		
12/12	権利擁護研修～虐待対応における意思決定支援とは～	茨木市	CM
12/14	認知症への理解	茨木市	CM
12/17	ケアプラン研修	茨木市	CM
1/8～3/14	認知症介護実践者研修	公益社団法人大阪介護福祉士会	介護
1/29	在宅医療における感染対策	茨木市	CM
2/7	人生会議（ACP）ってそもそも何？	茨木市	CM
2/28	自立支援・重度化防止に係る研修会	茨木市	CM
3/17	アセスメントに役立つ課題整理の技術	茨木市	CM

会議名	開催日	参加職種
所属長会議	第3火	施設長・管理者・主任・副主任
教育委員会	第3火	生活相談員・介護職員・看護職員・介護支援専門員
リスクマネジメント委員会	第3火	介護職員・生活相談員・介護支援専門員・機能訓練指導員・ヘルパー・看護師
サービス向上委員会	第3火	生活相談員・介護職員・介護支援専門員 サービス提供責任者・機能訓練指導員
行事・ボランティア委員会	第2火	介護職員・介護支援専門員・事務職員 看護職員・機能訓練指導員
園芸委員会	第3火	介護職員・介護支援専門員・包括職員
広報委員会	適宜	介護職員・介護支援専門員・包括職員
感染対策委員会	第3火	施設長・看護職員・介護職員・介護支援専門員・包括職員
衛生委員会	第4金	施設長・産業医・衛生管理者・看護職員 事務職員
介護調整会議	不定期	介護役職職員・フロアリーダー
デイサービス フロアカンファレンス	第3火	介護職員・生活相談員・看護職員 機能訓練指導員
デイサービス ケアカンファレンス	第3火	介護職員・生活相談員・看護職員 機能訓練指導員・介護支援専門員
ショートステイ	第3月	介護職員・生活相談員・看護職員

フロアカンファレンス ケアカンファレンス		機能訓練指導員
ヘルパー会議	毎月 15 日	管理者・サービス提供責任者・ヘルパー
2 包括合同会議	月 1 回	包括職員
ケアプランセンター 会議	毎週火曜日	介護支援専門員

VI 苦情処理及び第三者委員

当施設・事業所では、サービスの向上、利用者の理解を深めるため、利用者からの相談又は苦情に対応する常設の窓口を施設内に置いて生活相談員又は管理者を苦情受付担当者とし、施設長を苦情解決責任者としています。

事業所毎にも苦情処理担当者を配置し、苦情が出た場合は必ず対応記録をとり、管理者と連絡をとりながらすみやかに対応していく体制になっています。また意見箱を 1 階下駄箱横・2 階エレベーター横に設け、誰でも意見が出せるよう配慮しています。

苦情受付窓口担当者

事業所	窓口担当者	責任者
ショートステイ天兆園	川井 茂	角野 友哉
デイサービスセンター天兆園	永森 達志	
ヘルパーステーション天兆園	長谷中 小百合	
ケアプランセンターアイ	内山 暁子	
在宅介護支援センター天兆園	福隅 友美	
地域包括支援センター天兆園	中澤 亮子	

苦情に関しては、第三者委員として次のように定め苦情の内容に関しては定期的（4 月、10 月）に報告をしています。今期は上期 1 件、下期 7 件の報告を行い、中には同様の苦情が 1 ヶ月後に発生するケースも見られ、数回のカンファレンスを行う事で周知徹底を図っています。

第三者委員	佐々木 映 吉（緑町荘園前自治会長）
-------	--------------------

VII リスクマネジメント委員会

1、事故防止

2024 年度の事故報告件数は、下記の通りです。そのうち重大事故の件数（骨折、縫合が必要な外傷等で保険者に報告した事故）は、3 件でした。

ショートステイ	7 2 件（2 件）
デイサービス	7 1 件（1 件）
ヘルパーステーション	2 件（0 件）
ケアプランセンター	2 件（0 件）

地域包括支援センター 0 件 (0 件)

合計 147 件 (3 件)

今後、事故が減少するように原因を検証・検討し対策を実施します。また、リスク委員と全職員に周知徹底をすると共に勉強会等も開催していきます。

2、身体拘束廃止

家族の意向で送迎時ベルトを着用するケース 1 件

リフト入浴時、タオルで足を固定するケース 1 件

てんとう虫利用時、ベッド3点柵 2 台活用時

現在、施設では身体拘束は行っていないませんが、身体拘束につながる可能性のある場合の対応・記録の重要性について説明を重ね、「身体拘束等の適正化のための指針」及び「身体拘束マニュアル」の再確認と職種による認識の相違をなくすように周知徹底しています。

緊急でやむを得ない場合は、各部署や委員会・施設全体で検討し、やむを得ない場合のみ利用者に負担の少ない方法や時間帯で実施するように努力していきます。その後、解除に向けて検討を繰り返し、利用者の精神的苦痛も速やかに解除するようにしています。

今後、どんな状況でも身体拘束を行わないで介護ができるよう全員で取り組みを実施していきます。高齢者虐待についても全職員が理解し利用者が快適に過ごしていただける様、努めていきます。

3、虐待防止委員会

虐待ケース 2 件

内訳 身体的 1 件

ネグレクト 0 件

経済・精神的 1 件

虐待疑いケース 4 件

虐待リスクのある利用者に関して、記録・介護支援専門員への報告、経過観察をおこなっている状況です。

虐待の可能性を含め、虐待防止に向けて意識づけと報告が適切に行っているようにリスク委員だけでなく、全職員の理解と対応を実施してけるように努めます。

2024 年度 事業報告

社会福祉法人 恭生会

愛光認定こども園

2024 年 度 事 業 報 告

1. はじめに

2024 年度は新体制 3 年目となり、2022 年度、2023 年度から積み重ねていった取り組みが形になった一年でした。また本グループの理念であります「愛」「和」を重んじ、人権尊重の理念を基に、より地域に根ざした園造りを目標に動き出した 1 年でもありました。

まずは保育士不足がささやかれている中で実に 9 年ぶりに新卒者の入職が 3 名あり、「人材育成」をテーマに職員一丸となって取り組みました。人に指導してもらっていた立場から「人を指導する」という機会を得たことで、職員全体の専門性も上がり、また人に伝えることの難しさなど自分たちの課題点も多くみつき、振り返りも込めてよい機会を数多く得ることができました。

新卒者が入職することで、園の雰囲気も変わり、指導・育成においても成果のある 1 年となりました。

また以前より取り組んでいる SNS を使った園情報の発信は軌道に乗り、SNS を通じて園へ入園する、園へ入職する方々が増え、グループ内においても一目を置いていただける SNS 発信ができております。SNS の発信において他法人の方々が園見学に来られるケースもあり、園の広報という意味で大きな役割を担っております。

そして、2024 年度は保育現場での取り組みを外部からも評価いただく機会を得ることができました。2023 年度より取り組んでいた「町の図書館」を目標とした絵本コーナーの改造が功を奏し、文部科学省主催の「子どもの読書活動優秀実践園」に表彰され、園職員の取り組みが評価され、職員一同歓喜致しました。

2. 園児数について

* 定員とクラス別年間在籍児童数の平均値

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
定員	9 名	17 名	19 名	20 名	22 名	23 名	110 名
平均値	9 名	18 名	21 名	25 名	25 名	23 名	119 名

園児数の実績

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
4 月	10 名	18 名	21 名	23 名	23 名	24 名	119 名

5月	10名	18名	21名	23名	23名	24名	119名
6月	10名	18名	21名	23名	23名	24名	119名
7月	10名	18名	21名	23名	23名	24名	119名
8月	10名	18名	21名	23名	23名	24名	119名
9月	10名	18名	21名	23名	23名	24名	119名
10月	10名	18名	21名	23名	23名	24名	119名
11月	10名	18名	21名	23名	23名	24名	119名
12月	10名	18名	21名	23名	23名	24名	119名
1月	10名	18名	21名	23名	23名	24名	119名
2月	9名	18名	21名	22名	23名	24名	118名
3月	9名	18名	21名	23名	23名	24名	118名

3. 職員体制

園長	1名
主幹保育教諭	1名
指導保育教諭	2名
保育教諭（非常勤含む）	22名
事務	1名
看護師	2名
管理栄養士	1名
保育補助	4名
嘱託医（第一東和会病院小児科）	1名
嘱託歯科医（第一東和会病院歯科）	1名
薬剤師（東和会薬剤師）	1名

* クラス担任数

0歳児 (りす)	1歳児 (うさぎ)	2歳児 (やぎ)	3歳児 (きりん)	4歳児 (くま)	5歳児 (ぞう)
3名(2人)	2名(2人)	2名(3人)	1名(3人)	2名(1人)	2名(1人)

上記の職員は常勤換算です。 () 内非常勤職員

・2024年度も非常勤の職員をクラスに固定することで、クラス一丸となって教育・保育を進めることができました。

・**残業時間の減、休憩時間の確保、持ち帰りの仕事の減をしっかりと意識した**

園づくりを行い引き続き求人活動を進めていきたいと考えております。

4. 教育・保育目標

- ・グループの理念でもある、「愛」と「和」を重んじ人権尊重、自分を大切に思い、人を大切にできる心を育てます。
- ・2024年度も価値観が多様化する今の時代において、本園の目標である「生きぬく力」の確立のためにはコミュニケーション力が重要と考えます。そのため乳幼児期から対話的コミュニケーション力の獲得が期待できるフィンランドメソッドを教育保育に取り入れて進めています。2024年度は職員へ向けてのフィンランドメソッド研修も始め2025年度も引き続き園内で研修を続けていく予定となっております。
- ・幼児期に育てたい10の姿を目標とし、行事のための保育・教育ではなくこども達が主体的に興味・関心ごとに没頭できる保育カリキュラムを作成しています。

5. 具体的取組み

- ・0歳児クラスからたくさんの大人と関りを持ち、絵本や普段の遊びの中でコミュニケーション力を培っていております。絵本を人との関りの第一歩と位置づけ、0歳児から「絵本の貸し出し」を行い、その際にも大人が選ぶのではなく、自分で興味のある絵本を選ぶ取り組みを行っております。幼児期には、大人に「言われたからする」のではなく、自分たちで何ができるのかを考え、進めていくことを中心に行事、企画を考えていってもらっています。

そうすることで、自分の意見と相手の意見があることに気付き、なぜ自分がそう思うのか、なぜ相手がそのように思うのかと考える機会を作り運動会や発表会などは、保育者の「〇〇をやってみよう」ではなく、「何をやってみたい？」から始まり、自分たちで取り組み内容を考えております。

そういった経験を積むことでこども達は自ら人と対話をし、大人の力を借りることは最小限に抑えながら取り組みを主体的に進めることができるようになって感じております。

また「食育」活動には力を入れ、こども達が興味関心を持っている絵本の中に出てくる食べ物を給食メニューで再現したり、いつもは魚の切り身しか見たことがないこども達の前で実際に魚を捌いたりするなどして「食」により一層興味関心を示す取り組みも進めて参りました。

・課外教室

	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
リトミック音楽	○	○	○	○
体操・体幹教室	体幹教室	体操教室	体操教室	体操教室
英語で遊ぼう	○	○	○	○
スイミング			○	○

- ・課外教室は教育の更なる向上の為、専門講師による直接的指導です。

2024 年度もより一層講師の先生方と連携を密にし、カリキュラムを作成しながら各クラスの取り組み課題や次の目標に向けて話し合う時間を設けていきました。

一方で、スイミング教室は安全確保のためこれまで3 歳児よりスタートしていましたが、4 歳児よりスタートし、園長、保育者とスクールコーチと話しあい、プールの深さを調整してもいながら安全第一に進めております。

・障がい児保育

2024 年度に個別配慮が必要となる園児は自閉症児が 4 名、場面緘黙児 1 名、コルネリアデランゲ症候群（胃ろう児）1 名の合計 6 名でした。年々配慮が必要な園児が増えておりますが、「愛」と「和」と「人権尊重」の理念のもとインクルーシブ保育に努めて参りました。

胃ろう児の教育保育に関しましては、本児の成長に伴い、これまで以上に園、家庭、療育施設と連携しながらまた自閉症児に関しては高槻市の公民の療育支援施設との連携、見学、ケース会議を重ね、包括的な支援を行い、一人ひとりに適した関わりを見つけながら教育保育を進めることができいております。

・土曜日保育・延長保育

土曜日の登園は年々増加傾向にあり、毎週 20 名を超える受け入れがあります。そのため、4 名の職員の配置が必要となり、公休・有給を消化するためにどうしても保育・教育が盛んな平日に休みを取らざる得ない状況となっております。

延長保育に関しても同様に、18 時以降の未降園児の数は増加しており特に 0 歳児の園児も残っていることから保育教諭の最低配置基準を考えると 2～3 名の配置を考える必要があります。

- ・あいっこ広場（子育てサロン）

今年度も、高槻市子育て支援センターすくすくの地域子育て支援事業を引き継ぐかたちで、本園が主となり、地域の子育て世代へ向けた園庭開放やスペースの開放を行っております。

専任の職員を配置し、SNS 等を活用することで、ちびっこ運動会、クリスマス会の開催、管理栄養士による離乳食の試食会や相談、看護師による身体計測の実施等口コミが広がり、毎月たくさんの申し込みをいただき、定員の 15 名に迫る参加人数が集まるようになりました。またあいっこ広場を通して入園を希望され、2025 年度の入園につながったご家庭もあります。超少子の中、こういった地域支援を広げていき園児数確保へつなげる取り組みは次年度も続けていきます。

- ・毎月「あいっこ」だより、「ほけんだより」及び「給食だより」の発行だけでなくホームページの改編や 150 回以上のインスタグラムの投稿等、保護者へ向けて情報発信を積極的に行うことができました。

- ・社会福祉法人照治福祉会様との訪問型ボランティア事業であるホームスタートへも本園職員のビジターが年間 5 家庭訪問し、地域貢献に携わることができており、訪問員を養成する講座を開催するホームスタートオーガナイザーも一名在籍、またコミュニティソーシャルワーカーとして地域貢献事業に 5 件携わり、食材支援や住居設定支援を行うことができており、地域福祉における取り組みも進めております。

6. 年間行事

月	行事	月	行事
4 月	入園・進級式・ お花見・	10 月	運動会・遠足・芋ほり 高槻緑化フェア参加
5 月	遠足・保育体験（0・1 歳児） 玉ねぎ堀り・プラネタリウム鑑賞	11 月	作品展 クラス懇談会 年長児ディキャンプ 保育体験（0・1 歳児）
6 月	尿検査・歯科検診 クラス懇談会	12 月	クリスマス会 餅つき

			地域の老人会クリスマス会
7月	プール開き・七夕会 夏祭り	1月	獅子舞い・年始の集まり
8月	保育体験（0・1歳児）	2月	節分・生活発表会 0.1.2歳児個人懇談会
9月	交通安全教室	3月	ひなまつり・お楽しみ会 卒園式・3.4歳児個人懇談

上記以外に毎月誕生日会・小児科健診・避難訓練を実施しています。

- ・今年度より0・1歳児のご家庭を対象により園での取り組みを知っていただくために保育体験を実施しております。乳児期において保護者のもとを離れ、園でどのように生活しているのかを実際に見て、体験していただくこと、「保育の透明性」も確保することができております。
- ・食育の取り組みとして、給食を「家族以外とする初めての会食」としてとらえ全て食べさせる「完食主義」を見直し、「楽しい時間」になるようにしております。また、近くの八百屋さんからの協力を得て、実際に野菜を買いに行ったり、その野菜を調理したりしながら、「おいしく」「たのしく」食育活動を進めることができております。

7. 避難訓練について

- ・毎月1回、年間計画に基づき火災・地震その他必要に応じた訓練を行います。

実施日	内容	ねらい・目的
4月	園外の危険についての話し	避難経路の確認・保育教諭が子どもの生活を守る意識を高める
5月	避難訓練の話しを聞く	保育教諭の話しやDVDなどを見て、「お」「か」「し」「も」の約束を知る
6月	火災（消火器の使い方）	消火器の場所の確認
7月	災害発生時の避難訓練	災害時の役割の確認 避難経路の確認
8月	火災（小学校に	小学校に非難するほどの大規模災害を想定

	避難) 備蓄品の確認	した訓練 備蓄品の確認
9 月	前期訓練のまとめ	乳児幼児の保育教諭に分かれてこれまでの避難訓練の振り返りを行う 園児達への非常食の提供
10 月	AED の使い方 看護師指導	心肺停止の非常事態が発生した場合の AED の使い方を学ぶ
11 月	火災	慌てずに避難各自が放送を聞く
12 月	地震	地震の避難の仕方を知る 備蓄品の入れ替え
1 月	阪神大震災の話 を聞く	地震の怖さを知る。地震発生時の対応の確認 園内研修において発電機等の使い方を学ぶ
2 月	火災	寒い時の避難を体験 防寒着や毛布等 分け合い暖をとる訓練
3 月	まとめ	今までの訓練の再確認や事例を挙げて振り返り、次年度に繋ぐ

8. まとめ

2024 年度はこれまでに実践してきた取り組みが形となり、外部からの評価もいただくことで、法人、園、職員にとって飛躍の一年となりました。ただ、わが国における超少子の波は高槻市においてもすぐそこまで迫っていると考えております。

現在本園では定員 110 名のところ、定員を超えた園児を受け入れさせていただいており、入園希望の園見学者からの好評もいただき、待機児童が多くおられる状況ではありますが、高槻市における未就学児の人口減少においては、今後の園運営において大きく危機感を感じているところであります。

実際ここ 10 年に高槻市の未就学前児童は 5300 人減少しており 150 人定員の幼稚園、保育園、認定こども園が約 35 園不必要になってくるという計算ができ、公立の幼稚園、保育所は合併、民間委託を進め、園そのものを減らしつつある状況です。また高槻市の待機児童ゼロを謳った小規模園も今後は閉園傾向に向かうと思われます。

少子となると、保護者もより良いサービスを求めるようになり、園の取り組み内容、職員の能力、職員数が充実している園を選びます。

保育教育内容に関しては、今後も大人が何でも決めるのではなく、こども達を主体とした園行事を中心に進めて参ります。

そして保育士不足の時代においては保育士が足りず定員を減らす園もあるほど重要な問題となっているため、本園では職員が毎日生き生きと仕事ができる園を目指し、残業、持ち帰りの仕事の削減、会議時間の短縮、有給休暇の確保等働き方を整備し、「保育士不足」にならない園を目指して参ります。

そして、今後も 10 年、20 年と続いていく法人、園を目指し本法人のサービスを恒久的に継続していくためには、他園にはない「付加価値」をおびた保育・教育内容が必要であると考えております。「これまでもこうしていた」からではなく「これからの時代に合った保育・教育」を見つけ、実践し、外部へ発信していくことが重要であると考えております。

それは本グループが医療、介護、保育の社会基盤を持ちあわせた「強いグループ」であること。その強みをもっともっと外部へそして内部へ積極的に発信し、東和会ブランドの確立を計っていくことと思っております。

そして恭生会の認定こども園へ子どもを預けたら、他にはないより良いサービス、教育が受けることができるということを情報発信し、選ばれる園となれるよう励んで参りたいと思います。

2024 年度 事業報告

社会福祉法人 恭生会

和光認定こども園

2024 年 度 事 業 報 告

1. はじめに

グループの「愛」と「和」を重んじ人権尊重の理念のもと子ども主体の教育と同時に保護者の就労保証でもあります保育の両面を目指し、職員一丸となって取り組んで参りました。少子化と言われますが、本園への入園希望は多く、職員のモチベーションアップに繋がり、私たちは常に質の高い教職員の集団であると言う高い意識をもち、教育に向き合いました。また、子ども達の健康管理は第一と考え、働く保護者の安心に繋がり仕事に集中できるよう、最大の努力を惜しみませんでした。

こども園としての機能を果たし続け、日々の教育保育、そして行事への取り組みを工夫しながら、教育・保育・就労を保証するという大前提のもと、質の高い保育内容の維持に努め、地域の子育てを支える拠点としても、重要な役割を果たしております。

2. 園児数について

* 定員とクラス別年間在籍児童数の平均値

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
定員	9 名	18 名	22 名	23 名	23 名	25 名	120 名
平均値	9 名	18 名	22 名	27 名	29 名	27 名	132 名

園児数の実績

1 号認定 14 名含

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
4 月	8 名	18 名	22 名	27 名	28 名	28 名	131 名
5 月	8 名	18 名	22 名	27 名	27 名	27 名	129 名
6 月	9 名	18 名	22 名	27 名	28 名	28 名	132 名
7 月	9 名	18 名	22 名	27 名	29 名	27 名	132 名
8 月	9 名	18 名	22 名	27 名	29 名	27 名	132 名
9 月	9 名	18 名	22 名	27 名	29 名	27 名	132 名
10 月	9 名	18 名	22 名	27 名	29 名	27 名	133 名
11 月	10 名	18 名	22 名	27 名	29 名	27 名	133 名
12 月	10 名	18 名	22 名	27 名	29 名	27 名	133 名
1 月	10 名	18 名	22 名	27 名	29 名	27 名	133 名
2 月	10 名	18 名	22 名	27 名	29 名	27 名	133 名

3 月	10 名	18 名	22 名	27 名	29 名	27 名	133 名
-----	------	------	------	------	------	------	-------

3, 職員体制

園長	1 名
主幹保育教諭	2 名
指導保育教諭	2 名
保育教諭（非常勤含む）	34 名
事務	1 名
看護師（非常勤）	5 名
管理栄養士	1 名
保育補助	7 名
嘱託医（東和会病院小児科医）	1 名
嘱託歯科医（田村歯科）	1 名
薬剤師（東和会薬剤師）	1 名

* クラス担任数

0 歳児 （すみれ）	1 歳児 （たんぽぽ）	2 歳児 （ひなぎく）	3 歳児 （なのはな）	4 歳児 （なでしこ）	5 歳児 （ささゆり）
3 名	3 名	3 名	2 名	2 名	2 名

上記の職員数は常勤換算です。

- ・クラス担任が有給休暇や研修出張の場合フリー保育教諭が、クラスを補う為、常に全クラスを把握している事が求められます。
- ・保育教諭はその仕事だけではなく、人としての在り方とその姿勢が問われ、保育教諭は専門職としての、日々の保育と教育の課題に気付き、必要な研修会に積極的に参加し外部研修もリモート研修が多くなりました。上手く利用することで、時間短縮や費用の削減ができるなどの利点は大きかったです。キャリアアップ研修等も経験年数を重ねた職員が順次進めて行き、日々の保育意識が変わってきました。また、加配を必要とする園児が増加し教育内容にも多様化が求められ常に学びが必要でした。

4. 教育・保育目標

・グループの理念でもある、「愛」と「和」を重んじ人権尊重、自分を大切に思い人を大切にできる心を育てます。

・フィンランドメソッド教育を基本に「遊びと学び」が教育・保育の柱です。子どもは遊びを通して成長して行きます。どれだけ遊びを経験し、「頭」「体」「指先」を使って、心を動かされたかが成長の要です。「学ぶ意欲を育てる」子どもの主体性を大切にしながら、保育教諭の働きかけは常に子どもに向けられています。

・本園の教育のコンセプト上牧の自然を活用した、広い園庭での戸外あそびからの好奇心を育て絵本の読み聞かせによる 対話的コミュニケーションを重視した教育を取り入れています。

・幼児期において育みたい、思考力・判断力・表現力の基礎を育てます。非認知能力を育て、主体性をもち生き生きと日々の遊びに熱中し、優しさを受け優しさを返せる人に育ち、社会性を身に付けながら成長していくことが目標です。

5. 具体的取組み

・0歳児から2歳児は「養護」を基本とした、心の安定から「安全安心」の保育そして、この年齢の子どもは特に月齢による、成長の幅が大きく、同じ学年でも、4月生まれと3月生まれでは大きな差があります。その事を踏まえて、乳児保育を特化することにより、緩やかな成長曲線を描けるものと今後の成長に期待されるところであります。この独創的な保育が評価され、保護者からの信頼も得る事ができました。同時に園への理解と協力も得られ、この時期の子どもの成長には目を見張るものがありました。保護者の子育ての不安も取り除く材料にもなる事ができました。

また、3歳児から5歳児は子ども園としての、毎日4時間以上の教育の時間を確保し、遊びと学びを重視した保育計画を立て、縦割り保育にも力を入れ、結果子ども同士の刺激を受け、課題にぶつかると対話的解決策を見出し、その解決の難しさを経験しながら、年齢と精神的発達に合わせた社会性をも身に付ける事ができました。子ども達の主体性を大事にした教育の結果、本園が目指している対話的コミュニケーションの基礎が身につき5歳児は小学校へと進学しました。

・課外教室

	3歳児	4歳児	5歳児
--	-----	-----	-----

リトミック音楽	○	○	○
英語		○	○
サッカー教室		○	○
菜園	○	○	○
すうじ		○	○

・課外教室は教育の更なる向上の為、専門講師による直接的指導です。

また、保育教諭の学びともなり、保育の質を上げる事にも繋がっています。

実費となる為参加は希望制ですが、全員希望し保護者の熱心さが伝わります。

＊子育て支援事業について

・障がい児保育

要配慮として高槻市より保育教諭の加配を認められているのは、3歳児1名、4歳児3名2歳児1名

・医療的ケア児の受け入れ

3歳児上気道狭窄 痰吸入・経鼻栄養・酸素吸入を必要とする園児の受け入れ看護師必置の為ベテラン非常勤看護師により受け入れ準備が整い現在に至っております。高槻市では医療ケア児の保育には遅れがあり、我が東和会グループ傘下のこども園としては、先陣を切った取り組みに、今後の医療・障がい児教育に働きかけ、障がいがある子もない子も共に育つインクルーシブ保育を目指し積極的な受け入れを考えています。インクルーシブ保育から3歳児の重症疾患をもつHYさんに大きな成長がみられました。十分成果が上がっているものと、確信し次年度に繋いでいきます。

・延長保育

延長保育の利用者は、月平均380名（累計）月によりばらつきあり、保護者の就労が多様化してきたが、延長利用者が減少にあった。在宅と言う働き方の変化にも、子どもの保育時間の変動はありました。今後保護者の働き方にも変化が予想されるところではありますが、延長保育は子どもの立場では、減少されることは望ましいと思えます。

・園庭開放

一般家庭の子どもと園児が共に、安心して遊べる場として、開放しています。

月2回の開催ですが、事前申し込み予約制ということもあり、利用者が減少傾向

向にあり、地域の親子にとっての活動の場として開放し、こども園をより理解してもらえるように、内容を事前に公開し参加しやすい雰囲気作りを心掛けて開催します。

・一時預かり事業の推移（一般型）

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4・5 歳児	合計
4 月						
5 月	5 名	4 名	5 名			14 名
6 月	9 名	9 名	7 名			25 名
7 月	14 名	6 名	5 名			25 名
8 月	20 名	6 名	6 名			32 名
9 月	16 名	6 名	6 名			28 名
10 月	25 名	4 名	6 名			35 名
11 月	16 名	4 名	6 名			26 名
12 月	28 名	4 名	4 名			36 名
1 月	28 名	7 名	6 名			41 名
2 月	27 名	6 名	6 名			39 名
3 月	24 名	6 名	3 名			35 名

この事業は、仕事復帰を見据えた保護者の希望が多く、0、1、2歳の利用が目立ちます。希望者が多く次年度に向けた保護者の子育て支援としても、大切な事業の一環です。

* 保護者支援・地域交流の取り組み

- ・毎月園だよりクラスだよりとほけんだより、給食だよりの発行
- ・委託医による健康相談 隔月に実施する為、保護者からの相談は多く信頼度も高い、受診するほどでもないけれど、相談できる窓口があることは働く保護者にとっては、安心に繋がります。
- ・コロナ感染拡大の時は、老人施・地域交流・地域夏祭り等全ての地域交流が中止となりましたが、5類になり地域との交流が図れるようになり、活気づいてきた様子が伺えます。

* 守秘義務及び個人情報の取り扱いについて

- ・児童とその保護者に係る情報の守秘については、法人規定により全職員が誓約書を提出した上での職員指導を徹底しております。

6、年間行事

月	行事	月	行事
4 月	入園・進級式・ こいのぼりフェスタ	10 月	運動会・遠足・芋ほり やきいも大会
5 月	遠足・個人懇談	11 月	
6 月	尿検査・歯科検診 個人懇談	12 月	クリスマス会 餅つき・
7 月	プール開き・七夕会 5 歳キャンプ（場所変更） 地域の夏祭り	1 月	凧揚げ大会
8 月	夏祭り	2 月	節分・生活発表会・
9 月	プラネタリウム見学	3 月	ひなまつり・お楽しみ会 卒園式・クラス懇談会

上記以外に毎月誕生日会・小児科健診・避難訓練を実施しています。

- ・園行事は感染防止を図り、密になる事を避け、行事自体のやり方が、コロナを経験したことにより見直しました。結果子ども主体で成果を上げる事ができた事は職員の努力の上に成り立ちました。

・食育の取り組み

自園の畑で夏野菜（トマト・きゅうり・ゴーヤ）の成長観察をしました。

水やりや肥料、太陽の自然の恵みを受けて育つ姿を見る事で、食べ物の大切さが身についていきました。

毎月 1 回の食育会議で、給食業者とのメニューや内容また、アレルギーについて話し合い誤食を防ぎ、食に対しての興味を高め「望ましい給食」をテーマに食の大切さを子ども達にも伝えてきました。今年は食育の取り組みとして一年を通して“日本全国の郷土料理を知ろう”をねらいとして地域やそこで生活する人にも目を向け、感心を深めました。

7、避難訓練について

- ・毎月1回、年間計画に基づき火災・地震その他必要に応じた訓練を行う

こども園では、訓練の中心は職員であり災害が起きた場合、子どもたちの安全をどうしたら守れるのかが問われます。下記の内容での訓練を行い職員一人ひとりが災害に対しての知識と理解を深めました。

実施日	内容	ねらい・目的
4月	園外の危険についての話し	避難経路の確認・保育教諭が子どもの生活を守る意識を高める
5月	避難訓練の話しを聞く	保育教諭の話しやDVDなどを見て、「お」「か」「し」「も」の約束を知る
6月	火災（消火器の使い方）	消火器の場所の確認
7月	プールについて水難事故	水遊びやプールの危険性について知る 安全なプールの楽しみ方を学ぶ
8月	火災	指示を聞き落ち着いて避難し、保育士は避難経路の確認と役割の確認
9月	地震（防災頭巾を使用）	地震の避難の仕方を知り、落ち着いて行動する
10月	AEDの使い方	心肺停止の非常事態が発生した場合のAEDの使い方を学ぶ
11月	火災	慌てずに避難各自が放送を聞く
12月	地震	地震の避難の仕方を知る
1月	阪神大震災の話しを聞く	地震の怖さを知る。地震発生時の対応の確認
2月	火災	寒い時の避難を体験 防寒着や毛布等を分け合い暖をとる
3月	まとめ	今までの訓練の再確認や事例を挙げて振り返り、次年度に繋ぐ

- ・園児対象に警察官による、安全教室も今年是对面で始まりました。
- ・消防署員による AED 講習や、水難事故や怪我の応急処置など全体研修として職員間で共有し、知識として学びました。災害に対しての危機管理意識を全職員がもち、子どもたちにも自分の命の大切さを常に伝えています。

8、まとめ

*考える力・伝える力を身に付けられる教育保育を目指す質の高い教職員の集団であることを自覚し自尊心自己有能感を身に付けられる子どもを育てます。を目標として今後も継続をはかりたいと考えています。子どもが自分の目で見えた事を言語化する事を日常の生活や遊びを通して学んでいきます。

*障がい児保育枠ではありますが、医療ケアー児を民間のこども園が受け入れると言うケースが少ない中、看護師との連携を図り安全に進めて来ました。なによりもその園児の成長には目を見張るものがあり、同年代の子ども同士の刺激が大きく作用しているものと、保護者と共に成長を確信し、今後の保育に繋いでいきます。「障がい児保育」と一言では表現できないくらいに、医療的ケアー児に限らず子ども達が抱える課題も多様化してきております。どの保護者の願いも同じ“普通の子と一緒に育てたい“の思いです。それぞれの成長に合わせた教育・保育を目指し、インクルーシブ保育を積極的に進める中でも、安全が何よりも第一目標であり、対象児の子どもは勿論の事ですが、担当にあたる看護師・保育教諭の安全と安心感をもって、日々の仕事に向き合えるよう環境を整える事が大切と考えます。今後少子化はどんどん進んでいくと思われますが、働く母親が増加すると考えられます。子育ても多様化する中、育つ子ども達もそれぞれ個性が目立ち、中には育てにくさを感じる程の保護者もいます。今やこの教育・保育の場や子育て支援はこの社会においても必須事業の一つと言えます。子育て真っ只中の地域の皆さんに寄り添い、地域に根ざしたこども園作りを今後も職員一丸となって取り組んで参ります。

2024 年度事業報告の付属明細書

1. 理事の変更について

2024 年 8 月 9 日 理事 変更

就任 原田 康平 退任 高田 章好

社会福祉法人 恭生会